

西海市風力発電導入に向けた地域検討会（江島地区）

日時：2018年1月29日 9：45～11：45

会場：崎戸中央公民館（2階大集会室）

1、開会あいさつ

池上会長より、西海市における風力発電事業のゾーニング結果及び今後の事業化へ向けた検討会の必要性及び検討会設置の概要について説明があった。

2、議事

（1）地域検討会（江島地区）の立ち上げについて

（2）地域検討会（江島地区）の取り組みについて

（3）今後の課題について

西海市（以下、事務局西海市）より（1）地域検討会の立ち上げについて、アジア航測（株）（以下、事務局 AAS）より、（2）地域検討会（中浦地区）の取り組みについて、及び（3）今後の課題について説明を行った。その後、委員、オブザーバーより、上記議事に対する意見・質問を伺った。

3、 質疑応答

①「(1)地域検討会（江島地区）の立ち上げについて」及び「(2) 地域検討会（江島地区）の取り組みについて」説明終了後の質疑応答

◆検討会委員

【江島公民館審議会（江島浜行政区長）：渡辺委員】

当初江島から東側かつ1km以上離れた場所での計画とするという話があったと認識していたが、候補エリアは江島周辺となっており、最初の話と変わっている気がするがどうなっているのか。

→その話は環境アセスメントにおける配慮書段階の事業者からの話だと想定される。今回の検討会は、事業者との話とは切り離して検討させていただきたい。現在示している候補エリアは、ゾーニング作業により風況や漁業の状況などを踏まえ、その地域であれば風力発電事業を進めることが可能となる可能性が高い地域を示している。（事務局 西海市）

→事業者から東側という話はさせていただいていない。共同漁業権の内側を第一候補として考え、そこから住宅より1km離れた場所や航路、地域住民の方の意見等を考慮し、事業区域を絞り込んでいくという説明をさせていただいた。江島の東側という話について、東側では潮流発電の実証フィールドが実施されており、その話ではないかと想定される。現在検討している風力発電事業は、実証フィールドとは全く別の話である。（ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社 山本氏）

→現在ゾーニング、地域検討会、事業者による事業の3つのプロジェクトが進んでいるが、それらを混同しないように注意していただきたい。ゾーニングは西海市の地域の中で、風力発電事業を推進していくエリアを最終的に選定するプロジェクトである。また地域検討会ではゾーニングの結果を踏まえ、各委員やオブザーバーの意見を聞き、どのように合意形成を行っていくか等を検討していくためのものである。その後の段階として、先ほどのような事業者と地域住民の方との具体的なルールが決められていく流れとなる。（長崎総合科学大学 池上特命教授）

【江島公民館審議会（江島浜行政区長）：高瀬委員】

先ほど話に出た潮流発電の実証フィールドとの関係性はどうなっているのか。ダブルブッキングはあり得るのか。

→江島の北側と東側及び平島の東側に潮流発電の実証フィールドが存在し、一定は再生可能エネルギー導入のために活用して良い海域として理解いただいている。西海市としては、実証フィールド内では必ず潮流発電を実施しないといけない、また潮流発電しか実施できないと考えているわけではなく、当該海域の使い方については地域の方と一緒に決めていくものと考えている。仮に実証フィールド内で風力発電事業の計画が生じ、地域の方も承認するのであれば、風力発電事業が先行していくものと考え

ている。なお、当該海域は潮流発電の実証フィールドとして認定された後、いくつかの提案があったが、検討段階にすら達していないという現状である。その主な要因としては、潮流が速く潮止まりが短いため工事の実施が難しいというもの。再生可能エネルギーのために使用することを地域の方に認めてもらっているにもかかわらず、潮流発電実証事業の誘致が進んでいない状況の中で、可能な限りメリットを大きくかつ早く取得できるものを検討していきたいと考えている。よってダブルブッキングという考えではなく、どちらでも良いと考えており、現在のところ風力発電事業のほうが先にメリットを出せると考えている。(事務局 西海市)

【崎戸商船株式会社：木原取締役】

定期航路（フェリーみしま）について、もし平島・江島の地域住民の了承を得られるのであれば、航路変更をしても良いと考えている。航路変更するにあたり、航行時間が10分、20分伸びるとなると崎戸商船としても難しいが、そこまで伸びることは無いのではないかと考える。松島火力発電所が建設された際は、雇用が生まれ、物が動き、地域の店や業者を優先して使った等、大きな経済効果があったと考える。過疎化が急激に進む江島が風力発電の基地になれば、経済効果は大きいと考える。その場合は住民の理解が得られることを条件とし、全面協力したい。なお九州商船、五島産業へ協力申請することは可能であるが、協力してもらえるかは不明である。

また、江島周辺ではサンゴが最近確認されたが、海水温の上昇、磯焼けが進んでいる。佐世保の港でも8月に水温が上昇し、カラスガイが腐って落ちており、海水温は間違いなく上がっている。そのため風力発電施設で得た電力を使って周辺の海水温を下げるようなことができないかと考える。海は何もしないと悪くなる一方であるので、そういった電力を使って海の環境を良くする仕組みができないかと考える。

【江島公民館審議会（江島浜行政区長）：高瀬委員】

フェリー航行時間について、住民としては1分でも早く着いてもらいたい。
→航路を変更する場合は国交省へ申請が必要となるが、その場合は住民の方の理解が得られていることが前提となる。このままでは江島は過疎が進んでいく。風力発電事業は地域活性化のチャンスだと考えているので、環境・海にやさしく折り合いがつけば事業を進めてもらいたい。(崎戸商船株式会社 木原取締役)

【一般社団法人 海洋エネルギー漁業共生センター：渋谷理事】

漁業産業をしっかりと見ていくことが必要となる。まず現在の現状を把握しておくことが必要である。そうしないと何か生じたとき後手に回りうまくいかないことがある。ヒアリングを行い、文献調査も実施するがデータが古い場合もあり、実際に潜ると現状は違っていることがある。そういった情報を鵜呑みにせず現況をしっかりと把握す

ることが大切である。

【江島公民館審議会（西海大崎漁協理事）：柏木委員】

海の中の状況をしっかり調べてもらいたい。一回だけの調査でなく、4 季の調査を何年かにわたって調査してもらいたい。

【江島公民館審議会（江島浜行政区長）：高瀬委員】

風力発電施設を導入するか、しないかの検討も含めた検討会だと考えるが、地域住民の意見は急ぐのか。

→本検討会は来年度末までの事業であり、ある程度の成果を出したいと考える。ただし本検討会の中で事業を完全に受け入れるのか、受け入れないかといった結論を出す必要はないと考えている。

また、風力発電事業の動向について時間はあまり残されていないと考えている。その理由として、陸上風力はすでに多くの場所で建設されており場所はあまり残っていない可能性がある。その一方で国としては再生可能エネルギーを増やしていきたいと考えており、その場合これまで建設が難しかった場所への建設の検討が進んでいくこととなる。特に日本は海に囲まれており、その資源を活用していくことになると思う。

西海市としては、単に風力発電機によって発電したいのではなく、その事業を実施することで地域に大きなメリットをもたらす可能性があると考え本事業を行っている。そのメリットを得るためにはいち早く手を挙げていく必要がある。

風力発電産業の拠点として、福島県や北九州市が挙げられるが、西海市においても風力発電に係る部品の製造であったり、メンテナンスができる会社ができたり、漁業と共生する風力発電事業となったり、何か一つの分野においてトップランナーになりたいと考えている。その場合ある程度早い対応が必要になってくると考えている。（事務局 西海市）

【江島公民館審議会（江島浜行政区長）：高瀬委員】

資料 4-1 p11 の<検討 1-10>漁場利用状況（漁場環境）について、共同漁業権内の海面を占有することになるが、占有許可はどうなっているのか。

→まだそこまで検討する段階ではないのではないかと考えている。現段階よりも先のことを検討し始めると何も進まなくなってしまう。その点については順序よくやっていただきたい。（江島公民館審議会（青壮年部長）：宮崎委員）

【江島公民館審議会（青壮年部長）：宮崎委員】

青壮年部としては、外から人が来る産業は大いに歓迎する。陸上への影響は距離が離れているためあまり無いのではないかと考えるが、一方で漁師の立場として、漁業

環境への影響が懸念される。その影響については考慮していただきたい。

行事については人が少なく実施できていない状況であり、他の場所から人が入ってきてそういった行事が実施できれば良いと考える。何をするにしても人が少ないことが現状であるが、そこが解消できることは陸上（漁業以外）の観点から、最もありがたいことである。洋上風力発電所であるので漁業への影響については重点を置いて頂きたいと考える。（江島公民館審議会（青壮年部長） 宮崎委員）

【西海市 崎戸総合支所：植田総合支所長】

検討会においては住民の方と環境専門分野の方の意見を集約して進めていただきたい。崎戸総合支所としては、今後地域貢献策の点で意見を述べさせていただきたいと考えている。住民の方の意見の集約が今後大切になると考える。

【黒瀬建設株式会社：末永課長】

黒瀬建設では本郷地区で風力発電を 2 基運営しているがあまり稼働はしていない。その要因として機械の故障や風の乱れのほか、住民の方と連絡を取り合い、稼働を止めてほしいと要請があれば、稼働を止め、許可が出れば稼働させている。

大きい規模の事業になれば大手ゼネコンが入ると考えるが、本郷地区の風力発電機建設時は携わっており、地元企業でできる仕事があれば地元で対応し、新しくできることがあれば取り組んでいきたいと考える。

【株式会社親和銀行 地域振興部：下田部長】

地域貢献がどのように実施されていくか銀行として注目しているところである。工事期間とそれ以降の設備投資が住民の方にどれだけメリットがあるのかという試算について注目しており、共に検討していきたいと考えている。いくつか事例が出てきた際にまた報告させていただきたいと考えている。

【大瀬戸町漁業協同組合：竹嶋代表理事組合長】

漁業を存続させることに一番の願いがある。新しい構造物が建設されることで、漁業への悪影響が生じないように進めていただきたいと考える。

②「(3)今後の課題について」説明終了後の質疑応答

【西海市 水産課：岸下課長】

西海市の高齢化が解消できるような取り組みができればよいと考える。

【西海市 環境政策課：下田課長】

風力発電機設置後の環境影響が懸念される。先日の中浦地区検討会でも意見が出た

が、地域住民としては騒音・超低周波音の影響が最も気になると考えられる。その点についてはしっかりとしたデータを示していただき住民の方の理解を得ていくことが重要だと考えている。

【長崎県中央釣舟業協同組合：山下代表理事組合長】

海洋に構造物ができることで多少のマイナスの面も想定されるが、魚を寄せるような効果を期待している。魚が集まってきて、江島周辺の海域では全国から釣客が集まる可能性がある。今後そういった漁場利用を進めていただきたいと考えている。

【長崎県海洋・環境産業創造課：船越係長】

長崎県では積極的に海洋エネルギーを進めていきたいと考えている。西海市においては具体的にゾーニングをはじめ今回の検討会が始まり、地域の住民の意見を踏まえながら積極的に進めていただきたいと考えている。

以上